資料２

■柏市生きもの多様性プラン（素案）に対する意見

はじめに　生きもの多様性プランを通じて考えたいこと	
頁	意見
1	・このプランの目的は「身近な自然・生物多様性を保全する」ことなのに，普遍的・グローバルな視点の話から入っていて違和感を覚える。柏市の自然環境や文化，生活の変化などをまず簡単に紹介し，その後に普遍的・グローバルな話題に入ったほうが，読者に生物多様性を身近に感じてもらえるのではないか。
2	・「生態系ピラミッドの変化」の図をわかりやすく示したほうが良い。 ・「生息系」という言葉ではなく，「生態系」などの言葉に言い換えた方が良い。
3	・最下段について，危機感を強調してほしい。「生物多様性から生まれる恵みは過去の世代から現在の世代に受け継がれてきましたが，今日ではこれを将来の世代に継承できるか危ぶまれています。現在の世代の私たちは将来の世代に継承できるよう，緊急で効果的な施策を実行する必要があります」など。
１．生きもの多様性とは	
頁	意見
5	・「基盤的サービス」ではなく，「基盤サービス」へ変更したほうが良い。
7	・愛知目標の10年後の見直しがコロナで遅れたことや現在行われていること，今回の見直しは国家戦略の策定を待たずに行うが，方向性は次期戦略に準じていることなど，現状を整理して掲載したほうが良い。 ・生きもの多様性に関するひとつのトピックとして【経験の絶滅】という言葉があり，以下のような負のスパイラルが起こることを表している。 ★人間が生物を排除した都市に住む →自然と触れ合う経験をする人が減る（経験の絶滅） →自然の恵みを実感しない人が増える →人が住む場所からさらに自然を遠ざけるようになる →★に戻る 柏市も都市住民が増え，このようなことが起こっていると考えられる。そのため，人間と自然の触れ合いをする場を提供していく必要がある。下田の杜などは高密度の住宅街の中にありながら，田んぼの活動や虫取りお祭りなどが経験できる場で，非常に貴重な場所である。こうした緑地を保全し，活用していくことが非常に重要になってくるということをここで取り上げてはどうか。
9	・今年開催のCOP26では1.5℃未満に抑えることはきわめてむずかしいとしている。最新情報を加えたほうが良い。
２．生きもの多様性プランの基本的な考え方	
頁	意見
13	・下の図の縦軸の「生きもの多様性の状態」が不明確であるため変えたほうが良い。目標（もしくは現状維持，2030年には今より1割増しとか）などを示すほうが良い。
14	・計画の位置づけとして，国の国家戦略との関係性を言及したほうが良い。 ・生活排水対策推進計画を柏市生きもの多様性プランに内包とのことだが，汚水処理方法などの考え方など生物多様性につながりにくい部分も多くあるため，生活排水対策推進計画は独自に策定して欲しい。 ・「柏市生きもの多様性プラン」に様々な計画から矢印が向かっているが，「柏市生きもの多様性プラン」から各計画にも矢印が延びるべき。国や県などの上位計画との関係と市役所内の部署との関係をそれぞれ別の図で示し，市内の部署とどう関わっていくのかを具体的に示す必要がある。
３．柏市における生きもの多様性の現状と課題	
頁	意見
24	・キンランではなく，ササバギンランの写真である。
26	・柏の生態系ピラミッドの図について，消費者だけのピラミッドではなく，下に１段増やして５段として一番下の層には生産者である植物等を入れたほうが良い。
27	・外来生物の状況に関しては特定外来生物のカダヤシ，ウシガエルは特に記載すべきでは。また，手賀沼で近年見られるオオタナゴや市内でも分布を広げているキョンの記載が適当か。また，ヨコヅナサシガメよりアカボシゴマダラが適当か。 ・「本市では水域を中心に外来種の生息が確認されており、本市固有の生物相や生態系への大きな脅威となっています。」とあるが，いたずらに外来種を生態系破壊の原因とするのは悪手です。外来種がどのような影響を与えているかしっかりと把握し、効果的な駆除を計画的に行っていく必要がある。
28	・ホットポイント位置図に河川や国道などの記載があると分かりやすい。 ・「薮崎家屋敷林」は個人名になるため，「箕輪樹林地」に変えたほうが良い。 ・右上の表の一番下は「廃止」ではなく「消失」とすべき。 ・今回廃止した2ポイントも含め，動植物の生息，植生が後退を見せている19のホットポイントで何が原因になっているか分かりやすくグラフなどで記載するのはどうか（埋立，開発など） ・このページは非常にマイナスイメージがあるかもしれないが，このようなモニタリングを定期的にしっかりと行い，公表していることは非常に重要で高く評価されるべき。「開発の要因は様々ですが，これらのホットポイントを永久的に保全するには，相続税制度の改変や，土地買収を行うための多大な予算確保が必要となり，難しいのが現状となります。」くらい書いても良いのでは。
34	・「地域の自然を守るために，積極的に防除などの対策を実施していくことが必要です。」は，「地域の自然を守るために防除が必要と判断された場合は，計画的に対策を実施していくことが必要です。」といった表現に変更したほうが良い。「何でもいいから外来種は駆除」という考え方は逆に外来種の繁茂を拡げることにつながることもある(※)ため，慎重にしっかりと対策を行う必要がある。 ※ウシガエルを駆除することで，ウシガエルが食べているアメリカザリガニが大繁殖するという話など
35	・「生きもの多様性の重要性を自分事として認識する」というこの項目は最も多くの人が関係する項目のため，最初に持ってきてはいかがか。 ・この項目に「人間と生物の新たな関係を築く」という文言を入れてはいかがか。柏市民の多くは都市部に住み，生物とは無縁の生活を送っている。そうした人たちが，生物とのかかわりを持つため，昔に戻るのを目指すのではなく，新たな関係を築くことを目指す必要がある。

４．生きもの多様性プランの将来像と基本方針	
頁	意見
36	・「本市においては，開発が進む中，まだ多くの豊かな自然環境が残されています。」とあるが，現実にはこの数十年で相当な面積の森林が消失している。市街地の過剰な都市化による住環境の悪化も懸念され，より強力な対策が喫緊の課題となっていることから，もっと危機感を強調すべき。 ・今後は，市のさまざまな施策を生物多様性保全の視点で横断的かつ総合的に捉え見直すこと。また，さまざまな市民活動や行政施策に生物多様性保全意識の啓発と浸透をより図り，将来像の実現を目指すことを加えたほうが良い。 ・この文章では，人間と自然の「昔からの関わり」を無理矢理にでも残していこうという拘りが感じられる。「昔からの関わり」を大切にすることも必要だが，「時代に合わせた新たな関係を構築する」という視点が必要。 ・「水辺や人里の」⇒「身のまわりの」へ修正するなど，身近なフレーズへ変更することで「自分事化」が進むのではないか。 ・「身のまわり」の生きもの多様性をまずは「知る」ことから始めるのが良いのではないか。案として「身のまわりの生きもの多様性を知り，育み，伝えるまち　柏」とする。 ・「水辺や人里の生きもの多様性を育み，伝えるまち　柏」は現状を表していないうえ，将来像として思い描けないのが残念。「育み，伝える」ではなく，「守り，取り戻す(再生する，回復する)」のほうが現状に即しているのでは。 ・理念について，下記の文脈で提案したい。 　都市部に住んでいて生きもの多様性を身近に感じられない人が増えているが，そのような人々に少しでも生きもの多様性を自分事として考えられることができるような機会を創出し，まず柏市の生きもの多様性がどのようなものであるのかを知って欲しい。また，これまであった自然を守ることに加え，自然との新たな関係を構築し，それを育み，周囲の人々に伝えていって欲しい。
37	・「将来像を実現するための考え方」について，生物多様性保全意識の浸透が市民のステップアップにつながることに伴い，その結果が市の施策にも反映され，より高次の生物多様性保全につながり，それによってより豊かな住環境の実現につながっていくことが記述されるとよい。 ・ステップアップの図はわかりやすく素晴らしいもの。ここに，各ステップの「目標」とそれを達成するための「施策」と「期限」を書き加えれば，それだけで立派な戦略になる。
38	・表に「関連施策」を追記したほうが良い。また「目指す方向性」ではなく「数値目標と期限」を記載したほうが良い。 ・種の数について，現在柏にいない種を他市から持ってくるなどしないと数は増えないため，「種数」は数値指標にはならない。各種の生息地数や，生息地内での個体数の増加ならばある程度の数値目標になる。例えば「各ホットポイントの中での希少種の個体数の増加」，または，各ホットポイントで減少している種数を減らすことを目標にしても良い。
39	・指標の現況値について，「地球環境のために取り組んでいること」に対する回答としているが，地球環境問題＝生物多様性の問題ではないため，生物多様性に関する戦略の指標としては不適ではないか。

５．施策の展開	
頁	意見
42～	・取組の記載内容について，具体性に欠けているのでは。 ・取組ごとに数値目標を設定したほうがよい。 ・重点施策などを位置付けたほうがよいのではないか。
45	・取組の項目で「人里の昆虫生息…」とあるが，昆虫に限定しなくてよいのでは。
51	・「薮崎家屋敷林」は個人名になるため，「箕輪樹林地」に変えたほうが良い。
52	・「外来種が在来種を脅かす」という言葉は安易に使ってはならない。
54	・開発の情報をいち早く庁内で共有するために連絡会議は必要。関係部署に生物多様性担当を置くなど対策を考えるべき。 ・これを実現するためには，現行プランの「生きもの環境影響評価制度の創設」が必要では。要請や普及啓発では開発が止められないことは活動を行ってきた市民は良く知っている。何か代替案はないか。
58	・「かしわ環境ステーション」を「柏市生きもの多様性センター（仮称）」とすることについて，どのような効果が期待できるのか。十分な効果が得られないのであれば，それこそ選択と集中で取りやめて他の施策に力を注いだ方が良いのでは。
59	・学校教育で子供達に自然への理解や関心を深める為，近隣の自然の生態系についてのアプリを用いて学習する機会を与えるため，「タブレット・スマートフォンアプリを用いた環境教育」などの内容を追加してはいかがか。
60	・自然環境調査について，普通種を含めた指標生物を指定し，それを市民が日常的に調査し報告できるような仕組みづくりなど，調査の在り方も含め，検討が必要。
61	・施策1-1-6と同様の施策と思うが，こちらにまとめてしまっても良いように思うがいかがか。
62	・取組の中で水循環を意識した水道，下水の使いかた，雨水を貯留したり，宅地へ浸透させたりする取り組みが必要。 ・市民や企業にアンケートを行い，意識についての数値目標を設けてはいかがか。
63	・既存法制度による生物多様性保全は困難（現状の市の状況がそれを示している）。また，善意にのみ基づく生物多様性保全活動も重要だが，それだけでは実効性が乏しく限界がある。積極的に生物多様性保全を進めるためには，より具体的な柏市のあるべき姿をより多くの市民が共有し，それを実現するために，条例等による既存法制度を上回る取り組みが必要ではないか。現時点で一足飛びにそれを立案することは難しいため，本プランの中期的期間である2030年までの期間は，実効力のある「（仮称）生物多様性保全条例」の策定のための議論と合意形成，及び啓発のための期間とするのはいかが。 ・また，市民による自然保護活動への支援や多様な主体の連携は，その実現のために行われる必要がある。施策として書かれている取り組み以外の，柏市のあらゆる計画策定，開発行為等の許可，その他において，「生物多様性保全」のための具体的な対応策，または配慮事項についての記述や別途書類の提出を求めることは，早期に実現できるのではないかと思うがいかが。市民生活はあらゆるものが生物多様性保全や地球温暖化対策につながっていることを行政職員が認識し，市が率先して取り組む姿勢を示すことが市民への啓発や行動につながると考える。
65	・環境教育に関しては，幼い時期からの体験がかなり重要だという事が最近の研究で分かってきている。市内保育園，小学校での環境教育（低学年では遊びを取入れるなど）の必要性。自分の住んでいる周辺の自然環境を知り，愛着を持つこと，探究心を芽生えさせることも重要。
66	・企業に対するアプローチとして，企業側へ環境社会検定試験（ｅｃｏ検定)の推進をしてみてはいかかか。「ｅｃｏ検定」の導入により，社内全体で環境に対するマインドが高まり，社員の自主的な行動を促すことにつながる。

６．推進体制と進行管理	
頁	意見
67-70	・市役所のどの部署が，いつ，どのように動くのかを示してほしい。今後の見直しのプロセスについて，次期改定までのプランの年表を作成してはいかがか。また，今回は「柏市生きもの多様性プラン」が改訂された直後に「次期生物多様性国家戦略」が策定される可能性があるため，その内容を反映したり，プランの進行をチェックしたりするために，5年後を目途に中間評価と追記等による改定審議を行う必要がある。

その他（全体）	
頁	意見
－	・今後も多くの開発が起こるであろう中，柏市は豊かな水辺などを保有しており，多様性の維持しやすい環境を持っているいい街だと思っている。例えば，会議でお話しが出たベニイトトンボでについて，たとえ他の場所から水草等の移動で入り込んできたものだとしても，どこでも定着できるものではないことから，他の場所からの移入であっても，ベニイトトンボを育める環境があり，そこで定着してくれるなら，それは貴重ではないとか排除するものではなく，歓迎すべきもの（自然に移動してきてもそれだって他の地域のものですから）。そしてずっと定着し続けるならそれはもう柏市のもの。どんなに自然が豊かなところだって，温暖化やその他の影響で地域からいなくなってしまう種だってたくさんいる（例えば高山帯のライチョウ）。だから保護したって，減少するもの滅びるものは，何らかの理由があって減っているため，その理由が温暖化等の環境変動だったら（もちろん柏市を含めた日本全体の取り組みは必要ですが）ある意味仕方がないこと。そうではなく，“本来なら減少せず，ずっと生息できるはずだし，むしろ増えても良いのに，減少したりいなくなってしまう・・・”，このような事例を少しでも減らすことが，このプランの中核にあって伝わるようにしてほしい。
－	・本プランに限らず，市の今後の計画策定には人口減少を見据えた行動計画が必要不可欠。人口減少局面で市の持続可能性を考える時に，生物多様性保全の視点と，それを包含した経済活動に基づく街の経営は不可欠。その点から見ると柏市はかなり危機的な状況にあり，その危機感をより多くの市民や行政職員が共有することが必要。
－	・まさに次期国家戦略が立てられようとしている直前に改訂を行うのが適正なのか。COp15自体が遅れたため，本プランの策定も遅れて仕方がない。国の国家戦略を取り入れて作成したほうが良い。
－	・柏の生きもの多様性を知るうえで，歴史や文化で守られてきた環境や生きものを知ることも重要。柏市は古くから手賀沼周辺地域に人が住み，沼や谷津環境に暮らしてきた文化がありそれが今につながっている。
－	・次期生物多様性国家戦略研究会報告書(R3年7月30日)を見ても生物多様性が損なわれている危機感が強く感じられるが，本プランには危機感が希薄。
－	・環境省が「次期生物多様性国家戦略研究会報告書」を取りまとめている。その内容はしっかりと反映されているか。特に重要と感じる内容を下記に示す。 ・カーボンニュートラル政策と生物多様性保全政策のトレードオフ（例えば，森林が伐採されて太陽光パネルが置かれるなど）について，言及する必要があるのではないか。 ・ 自然を活用した解決策（NbS：Nature-based Solutions）について，環境省の報告書では何度も言及され，重要視されている。「グリーンインフラ」という関連ワードなど，柏市生きもの多様性プランでも言及する必要があるのではないか。 ・OECM（Other Effective area-based Conservation Measures；保護地域以外の地域をベースとする効果的な保全手段）の考え方は，都市緑地などにも当てはまるもの。現在国がOECMに関する制度設計を行っていくなどの動きがあるため，対応できるようにしておくべき。
－	・国は現状として「生物多様性の損失と生態系サービスの劣化は継続」という判断を行っている一方，本プランでは，P13において生きもの多様性の劣化が止まっているかのような図となっている。国も劣化が止まっていないことを認めているため，市としてもしっかりとした評価（P28,29では明らかに劣化していることが報告されています）に基づいた現状の評価を行い，それを受けて今後の計画をたてるべき。
－	・新型コロナウィルス感染症についての言及をもう少ししても良いのでは。テレワーク時の運動不足解消やストレス解消に緑地は貢献できるという話も多く聞く。自然の多い沼南地域で自然と触れ合えるレジャーを楽しめる事業を展開するなど，都内に通勤する方の多い柏市としては、非常に重要になる視点となると考える。
－	・2020年3月に柏市緑の基本計画が改訂されているが，こちらの施策との関連性などについて言及したほうが良い。
－	これまでの部会で出た下記の意見が十分に反映されているか。 ・現行プランの評価を行い，それを受けて今回の改訂を行うべき。 ・気象の変化により大雨が増えるなどの事象に対する災害対策として水循環を施策の中に位置付けていかなければならない。 ・教職員も含めて行政職員の研修として生物多様性を組み込んでいくのはいかがか。 ・現行の多様性プランにある『生きもの多様性プラン庁内調整会議の設置』を早急に進めるべき。そこで教育委員会や都市部と連携をとっていくことが重要。 ・（物流倉庫での外来種対策について）行政としても可能な範囲で事業者の協力をスムーズに得られるような制度設計をしていくことが必要。 ・（外来種対策全般について）やはり優先順位をつけて，その緊急度合に応じて対応していくことが必要。 ・願わくば，町の中には様々な環境があって，その中で生物多様性が育まれるという街のビジョンを作ってほしい。
－	・2050年までの長期目標，2030年までの短期目標といった構成が一部でしか見られないため，そのような考え方が細部まで行き届くようお願いしたい。
－	・以下のような施策の段階を設定し，項目ごとに現在どのSTEPにいるのか，2030年にはどのSTEPで，2050年にはどのSTEPにいることが目標なのか書いてはいかがか。 STEP1：予算や人員を避ける状態ではない。 STEP2：周辺で何か関連事業があれば，保全・支援などを行う体制が整っている。 STEP3：保全・支援を行う法律・条例が整備されている。 STEP4：保全・支援を行う法律・条令があり，予算・人員が確保されている。 STEP5：保全・支援が進み，生きもの多様性関連の指標が向上している。